

## 日中国交正常化 50 周年記念行事 岡山商科大学孔子学院中国文化講演会 開催

7月30日(土)13時に孔子学院で中国文化講演会が開催された。年中行事として毎年開催されるイベントであるが、今年はちょうど日中国交正常化50周年という節目の年を迎えるため、岡山県日本中国友好協会事務局長横見幸憲氏を講師に迎え「日中友好交流の歴史について」という題名で講演会を開催した。当日、孔子学院中国語受講生をはじめ、受講生の友人、大学の元教員及び県日中友好協会の会員など、20数名が講演会に参加した。

講演会では、まず日中友好交流の歴史を振り返り、その後岡山県日中友好協会の活動の歴史を紹介するDVDを鑑賞し、最後に横見氏自身が日中友好活動に携わるようになったきっかけについて話された。紆余曲折ともいえる両国の交流は戦後、さまざまな障壁を乗り越えて国交を回復し、平和友好条約を結ぶまでに至るなかで、重要な役割を果たしたのは民の力であったと、横見氏は強調した。その民の力として、岡山は歴史的に有名かつ重要な先達を輩出しており、古くは遣唐使の吉備真備をはじめ、中国建国の父である孫文と親交を深めた犬養毅、戦前戦後を通じて中国との友好を訴え魯迅とも親しかった内山完造、更に戦後日中国交回復のために尽力した経済界の岡崎嘉平太。そのうちとりわけ内山完造は日中友好協会の創設者として特筆せねばならない存在であると、話された。

また、日中友好協会に関する紹介の中では、今や公益社団法人として日中友好のために大きな役割を果たしている日中友好協会だが、1950年10月1日の創立大会に先立ち1949年10月に岡山で準備会として発足したのであり、以来、過去の日中戦争への反省の上に立ち、当時日中両国間はまだ国交がなかったが、経済・文化・教育・スポーツ等の様々な民間交流を行ってきた。協会活動の歴史は70年近くとなり、日中関係団体の中でも最も古い歴史をもち、各地に加盟都道府県協会を有する唯一の日本全国組織となった。岡山県日中友好協会は日本中国両国民の相互理解と友好を深め、もって日本とアジア及び世界の平和と繁栄に貢献することを目的とし、今後は、岡山県内の市町村と中国の都市との友好都市締結に向けた取り組み、平和と歴史と緑化のための訪中団の派遣及び中国を知ってもらうための啓蒙活動といった内容は予定されているという。

更に、横見氏自身の日中友好に携わったきっかけや様々なエピソードについても話された。国と国というスケールの大きいテーマだったが、地元岡山視点、そして現場で活躍中の第一人者ならではの血の通った温かみのある講演会となった。内山完造の話は今日初めて聞いたと参加者の声もあった。国籍にかかわらず、より多くの人に事実、ないし現実を知ってもらってこそ、真の相互理解相互尊重が生まれるのだろう。何より、今回の講演会を通して、日中友好にはこの先も相変わらず民の力が必要不可欠だというメッセージが強く胸に響き、その窓口として孔子学院の更なる活躍が今後ともますます期

待される。

